

二つの人車鉄道^{じんしゃてつどう}



人車鉄道跡 大字甲 3472 周辺
（「ふじおか見てあるき記」藤岡町教育委員会から）

いわふねさん 岩船山は、古くから^{せきざいさんち}石材産地として知られていました。そこで、
^{にっしんせんそう}日清戦争の後、産業の発展を見込んで、人間が動力となる人車鉄道による運搬が計画され、岩舟から、
^{わたら せがわえんがん}高取を通り、渡良瀬川沿岸まで約

7キロメートルの^{きどう ふせつ}軌道が敷設され、1900年（明治33年）9月に開業しました。しかし、岩船山と藤岡地域を結ぶ人車鉄道とは別の鉄道が、当時の内務省によって計画され、1918年（大正7年）に岩舟から只木を経て東^{ひがしあかま}赤麻まで、約9キロメートルの^{けいべんてつどう}軽便鉄道として開通し、人車鉄道は主力をうばわれて、1929年（昭和4年）に廃止されました。（「ふじおか見てあるき記」藤岡町教育委員会から）

栃木地域でも、^{なべやま}鍋山と栃木を結んで石灰を運ぶ鍋山人車鉄道が1897年（明治30年）につくられました。栃木駅を東に進み、娃プロニーの前を通ってから北に折れ、^{かいめいばし むろまち かわいちよう}開明橋（室町と河合町のとの境）を渡って大通りに入り、^{やまとちよう よろすちよう}倭町、万町を通り、サンルートホテル前の交差点を左に曲がり、栃木高校の前を通過してその西側

を北上し、^{しりうち}尻内から鍋山に通じるものでした。しかし、町の中を通
るため、交通事故もあり、また石灰が飛ぶなどの苦情もあったため、
のちに錦着山の前を通るようになりました。

(「栃木市のあゆみ」 栃木市教育委員会から)